

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2671200463
法人名	医療法人栄仁会
事業所名	栄仁会グループホーム おおわだの郷
所在地 (電話番号)	〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄折坂55番地 (電話) 0774-38-2715

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館京都」1階		
訪問調査日	平成22年2月24日	評価確定日	平成22年5月13日

【情報提供票より】(平成22年 2月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤 6人, 非常勤 20 人, 常勤換算 9.5人	

(2) 建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	鉄骨造り	
	2 階建ての,	2 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(250,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	320 円	昼食 430 円
	夕食	600 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性 0 名	女性 18 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	4 名	要介護4	7 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85.4 歳	最低 77 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人栄仁会宇治おおばく病院	木沢歯科
---------	-----------------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

宇治市黄檗山万福寺に近く、住宅街に違和感のないたずまいのデイサービス併設のグループホームである。ホームの母体である「宇治おおばく病院」は精神科を主とし50年前、精神病に対する偏見を無くそうと、地域に向き質の高いサービスを目指してきた歴史をもっている。現在は、「物忘れ外来」を開設するなど、認知症を主要テーマとし、法人全体で取り組んでいる。当ホームの特徴に、利用者を「ファミリー」と呼ぶ習慣がある。利用者も、職員も家族の一員とお互いの存在の大切さを認め合い、利用者の状態によっては家族と共に支えあう自然な人間関係の構築に力を注いでいる。長年勤めてこられた管理者の交代はあったが、経験豊富な職員が中心となり、例えば点滴となり、針を抜こうとする利用者には辛抱強く寄り添い見守り、経口による食事摂取へと、更に大好きなきゅうりの歯ごたえを味わってもらおうとの支援プロセスは、一人ひとりを大切に、残存機能を引き出すことを大事に取り組む職員のチーム力の強さといえよう。壁にかかる利用者を厚い防寒着で包み出かけた元旦初詣のホーム利用者全員の晴れやかな表情の写真は圧巻で、連れ出した職員の意気込みも見事である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームだより「おおわだ通信」が発行されるようになった。 ・個別の介護記録に介護項目が明記され、項目に連動した記録様式が設けられた。 ・「グループホームにおける看取りについて」明文化されている文書が確認できた。
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、管理者、各ユニットリーダーが作成したものを職員に回覧し周知を図っている。訪問調査は管理者、各ユニットリーダー、法人の理事も同席し、積極的な意見交換もあり、受審に対しては前向きである。次回は職員全員参加による自己評価を期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月毎に利用者、家族、町内会会長、地域包括支援センター職員、ホームの管理者・職員が参加して開催。行事報告や現状の課題等について報告している。活発な意見交換までには至っていないように見受けるが、町内会会長から、併設のデイサービスの開放日の案内を町会内に回覧してはとの提案が出され対応している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、利用者の苦情や意見を聞き、事業所に戻してゆく宇治市嘱託の「訪問調査員」を受け入れている。苦情・意見は、ホーム・職員を成長させる機会になるとの認識を持ち、話しやすい雰囲気を、また前向きに意見を吸収しようとの姿勢でいる。しかし苦情が出てきていない現状を是とすることなく、初心に立ち返り、話し合い、お互いに確認してゆきたいと考えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、「こども110番」の施設として協力、隣人の老夫婦の夫が怪我した際の通院介護。地域のお祭りの子ども神輿の立ち寄り場所、地藏盆には利用者とともに参加するなど、地元の人たちが気軽に訪問してもらえるよう雰囲気づくり、交流に務めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームの理念は、法人の理念を踏まえ「地域の中に根付き、地域の中で愛され、地域の人々とともに歩む」とされている。廊下や、玄関に表示されている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践事例として、近隣の高齢者の怪我や、体調悪化に対する応急相談、迷子になった認知症高齢者の相談等が飛び込み救急車の手配、一時的なホームでの保護、関係機関との連絡などの協力をしている。一方町内会の会合には場所の提供をし、忘年会の会場に使われるなど、これらの取組から、着実に地域との関係づくりができてつつありホームの存在や、役割が地域住民に意識化されつつあることがわかる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、「こども110番」の施設として協力、隣人の老夫婦の夫が怪我した際の通院介護。地域のお祭りの子ども神輿の立ち寄り場所、地藏盆には利用者とともに参加するなど、地元の人たちが気軽に訪問してもらえるよう雰囲気づくり、交流に務めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者、ユニットリーダーが作成し職員に回覧し周知を図っている。訪問調査当日、法人理事が同席され意見を交わされるなど外部評価への関心の高さが窺える。先の改善事項に対し①「おおわた通信」が発行された。②介護支援記録の様式に介護項目が明記され様式の改善がなされた。③「グループホームの看取りについて」といった基本方針が確認できた。	○	自己評価については、職員全体乃至はチームを設け取組むなど、評価への関心の当ホームの高さ故に期待したい。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に利用者、家族、町内会会長、地域包括支援センター職員、当ホームの管理者・職員が参加して開催。行事やホームの現状、課題について報告し意見を求めている。ホームの暮らしの状況を伝えるため見学をしてもらっている。町内会会長から、2階のデイサービスの場の開放について、開放日の案内を町内に回覧してはとの提案が出され、対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は宇治市の介護保険課所管事業の委嘱を受けるなど、市とは連携を密にし、ホームの現状報告や情報交換に努めている。また宇治市委託の訪問調査員を受け入れ、利用者からの意見、苦情などの把握をしてもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の金銭管理報告とともにホームのたより「おおわだ通信」を送り始め、家族から「全体の雰囲気がわかる」、「楽しそうで安心」といった感想が述べられている。行事等で撮影したアルバムも個別に配布し、きめ細かなサービスに感謝の声が寄せられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族からの苦情・意見は、ホーム・職員を成長させる機会になるとの認識はあるが、実際に苦情・意見を聞いていない。時にアンケートなどもとってみることで、新たな家族等からの反応が得られないか。ケアをする姿勢として認識されているところの試みを期待したい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この1年間の異動は管理者の定年退職のみであった。元の管理者の利用者への周到的配慮で影響は見られなかった。過去職員の結婚退職には祝福の一方で双方に寂しさもあり、しかしホームで築いた人間関係の絆をあらためて確認する機会にもなっている。結婚祝いにコソコソと心を込め作ったアートフラワーなど孫を嫁がせる思いで贈られている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として、人材育成のための行動計画が策定中である。現在研修は公的、外部、施設内、自主勉強会に分かれ参加者を計画化し実行に務めている。個々の能力や、経験に応じた研修の取組は来年度に実施が予定されている。併設のデイサービスとの相互研修は生活の場と、通いの場の違い等気づかされる研修機会として、有効に実践に活かされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は宇治市のケアマネ連絡会に加入し、ホームとしては京都府認知症グループホーム協議会に加入し意見交換、見学等の機会を持っている。法人内からの見学も多いが、一つのグループホームで、「かごの鳥」にならないよう外からヒントを得ることの大事さを認識し、努力されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間の試し利用をし入居決定をした利用者、3日間ホームを利用し、4日自宅で過ごすなどを繰り返し、ホームの生活に馴染んでいった利用者もある。利用者の生活歴、生活スタイル、気性、嗜好、得手不得手等を把握しホームの環境に馴染めるよう相談しながら利用に向うよう取組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	当ホームは利用者のことを「ファミリー」と呼び、家族として意識し、関係を築く努力をしている。場面によって利用者の息子・娘・夫・妻・会社の同僚・教え子になるなどの役を演じ、利用者の気持ちに近づき、気づき、支えあう関係づくりに活かしている。利用者と接することで自分が優しくなれると感じている職員の声もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始に当たっての基本情報。生活歴・生活スタイル・性格・嗜好・得意・不得意・意向と詳細な情報がアセスメントシートに記載されている。利用一定期間経過後、ミーティングで利用者の日々の暮らしの中から気づき、耳にし、表情等から読み取った情報を職員みんなでホワイトボードに書き出し、利用者の希望・意向の把握に努めている。このような中からたとえば「毛染めがしたい」のつぶやきに着目し介護計画への反映に結び付けようと考えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当者制を採用しており、担当者として介護計画作成担当者を中心になって作成し、日々の利用者とのかかわりの中から、気づき、家族との話し合い、医師や、看護師の医療面からの情報を元にカンファレンスを行い、介護計画を作成しているが、利用者、家族からの要望等は乏しい。	○	利用者の重度化により、介護計画も身体介護や、ADLの占める割合が多くなってきがちであるが、利用者が持っている力を引き出すための取組や、持っている力の発揮など前向きな介護計画の作成に職員全体で取組まれることを期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月1回見直し、状態変化があった場合随時見直しを行っている。最近日々の介護ケース記録を介護計画に沿ったものに様式をかえ、見直しがしやすいものに変更している。変更した様式は、バイタル・食事量等に関する記録、介護計画の項目が記載されており、日々の生活の記録と、介護計画の項目が連動し、この様式による効果的な活用を期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイサービスとは、イベントを共同で行い訪問調査当日も合唱ボランティアの訪問に利用者も参加し、賑やかな楽しい時間を過ごしホームに戻ってこられた。お墓参り、神社への参拝、理美容院といった利用者の個々のニーズに職員が同行し支援している。地域住民に連れてこられた家が分からなくなった認知症高齢者の家を探し、ホームのお風呂に入れ送り届けるような支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院やそれ以外の医療機関(皮膚科等)への通院支援や往診依頼をしている。また夜間、体調が悪くなった場合、各ユニットの常勤看護師から指示を受けられる体制がある。同法人の宇治おうばく病院の認知症専門医との連携のもとに支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「グループホームにおける看取りについて」は明文化されている。主治医を交え予後、QOLの変化予測、医療の要否・ホームでの医療・介護の限界、利用者・家族の思い等の話し合いは限られては居るがなされている。しかし今後取組まねばならない課題についても自覚されており取り組みが期待される。	○	看取りについては、医療・介護・家族の意思統一はもとより、介護・家族への不断の対応確認、繰り返し学習していることが、重要である。キーパーソンを含めた家族並びに、職員に対する勉強会の定期的な開催等が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助では、耳元でささやく、アイコンタクトで伝わるように関係性ができている。周りの利用者に気付かれないうちに近くのトイレでなく、遠いトイレを利用することもある。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は日々の業務を優先しているのではないかと自戒の意識をもって業務についている。しかし、ホームで皿ふきをする利用者の姿を、家族がそんな光景を見たことがない声や、車いすで老健から入居した利用者が自立歩行をし、キャリアウーマンで家事をしたことないと言いながら、家事を楽しむ利用者がある。廊下に掲示されている利用者の写真の表情のやさしさからその人らしい生活が送られているのがうかがえる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	正月のおせち料理を一緒にこしらえたり、鍋やバイキング形式の食事をすることもある。外食ではお寿司・鉄板焼き・お好み焼きに行くがラーメン・ピザなども人気がある。また、誕生日プレゼントのドライブ帰りに個別に外食する。配膳・下膳・テーブル拭きを日課とする利用者もおられる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1対1の同性介助である。鼻歌を歌いリラックスしている利用者がいる。夜間入浴はできないが、日中であれば希望の時間帯に入浴ができる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物、ちぎり絵、音楽鑑賞、体操が好きな利用者、散歩、ドライブ、外食、買物を楽しむ利用者、居室・廊下の清掃、洗濯のたたみ、食事の準備・後片付けを役割としている利用者に対し、声掛けや、必要な準備等の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に買物、散歩はしている。利用者の中には「ごみ出し」と言ってホームの周りを散歩する利用者がいる。また、宇治田原の猿股神社に墓参りする利用者には同行支援をしている。花見・イチゴ狩り・植物園・花火大会・紅葉狩り・初詣他ドライブに利用者のリクエストを聞き出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。玄関にセンサーが設けられている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署との連携のもと、夜間想定避難訓練を実施。消防報告書は運営推進会議で説明している。参加した職員から、利用者にマスク着用をしてはどうか、近隣住民や町内会の会長の参加のお誘いをしてはどうかの意見が出ている。近所の住人から、訓練に誘って欲しいとの声も寄せられている。スプリンクラーは 予定はしているが、設置に至っていない。それら以外は、設置できている。(消火器、通報器、感知器等はある)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人一人の食事の摂取量は記録されている。水分量については必要な利用者については記録されている。栄養バランスについては法人の管理栄養士からのアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・各テーブルに生け花がある。壁には利用者の行事・日常生活の写真が飾られている。リビングの壁には利用者が書いた書道が掲示されている。カウンター式の流しから、リビングの利用者の様子がわかり、解放的な明るさがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド・洗面台・クロゼット、整理ダンスが備え付けられている。整理ダンスの上になくなったご主人の若いころの写真立てやひ孫の写真・家族全員の集合写真を飾る利用者や枕元に実物の猫に似たぬいぐるみを置いている利用者(猫好き)もいる。		